

大森 教雄さん（43・豊科） 子どもの数だけ増える 地域との関わり

■家族構成

父・大森教雄さん（43）
母・亜希子さん（45）
長男・資介さん（19）
次男・柊芽さん（16）
長女・あかりさん（13）
三男・陽目さん（11）
四男・創竣さん（9）
五男・康永さん（6）
次女・やよいちゃん（3）
六男・新文くん（1）



好きなことを全力で楽しむ

子どもの頃から好きなことをやらせてもらえる環境で育ち、医師、ジャズミュージシャン、青年海外協力隊と私を含め兄弟それぞれやりたいことを仕事にしています。この経験から「子どもは自分の倍の6人欲しい」と結婚式で宣言。本年、結婚20周年を迎えますが、目標を超える8人の子どもに恵まれています。

「過度な期待をせずに本人がやる気を出すタイミングを待つ」。これが私の子育て論です。わが家ではまず、全力で遊びやスポーツ、趣味を楽しみます。趣味が多いと将来、人間関係を築きやすくなりますしね。

安曇野は子どもがスポーツに触れる環境が充実していて、スポーツ少年団にみんな通っています。それに合わせて私がサックスをやっていることも

■プロフィール

愛知県出身。2018年県立こども病院赴任を機に移住。妻と8人の子ともたちと暮らす。庭でニワトリを飼育し、家庭菜園なども行いながら自然と触れ合う子育てをしている。

それぞれの思いは
私たちの安曇野物語
未来を紡ぐ



安曇野市が誕生して20年。

私たちは、北アルプスの麓に広がる自然と先人たちが築き上げてきた文化・歴史を受け継ぎ、その環境と共に人と地域のつながりの温かさに包まれて、日々の暮らしを営んでいます。

「自然、文化、産業が織りなす

共生の街 安曇野」へ――。

未来に向かうための歩みは、決して特別なものではなく、今を精いっぱい生きる一人一人の思いの積み重ねの先にあります。

この章では、市民の皆さんが暮らしと共に感じている幸せや、行っている活動、その中で大切にしている思いを届けます。

節目の年に「私たちの暮らしと安曇野」をあらためて見つめる。そして、それぞれの思いが一つとなり、今残したい安曇野物語が未来へとつながっていきます。

あり、子どもたちには楽器もできるようになってほしいと思っています。いつか家族でバンドを組むことを夢見ています。これらも親からの強制ではなく、本人たちが自然と興味を持つまで導きながら待つことを大切にしています。長男の資介も高校3年の夏までスポーツや趣味に没頭していました。ある日、医師になりたいと言い出し勉強を始め受験。現在は安曇野を離れ北海道の大学に通っています。

安曇野の暮らしに溶け込む

子育てをしながら勤務医として働くことは一見大変そうに思えるかもしれませんが。しかし、当直明けの日中も活動できますし、職場や地域の皆さんが協力してくれるので毎日充実しています。妻も「子育てがたくさんできて幸せだし、上の子と下の子との関わりを楽しめる」と笑います。

地域と関わる機会は子どもの数だけ増えます。4年前、公募制となった中学校のPTA会長になりました。最初は不安でしたが、活動をしているうちに地域との関わりが面白くなり、どんどん夢中になっていきました。今は、このような機会を増やし、安曇野に昔から住んでいたように暮らすことをモットーにしています。それを迎え入れてくれる環境があるこの安曇野で、今後も家族と地域に寄り添い生活していきます。